

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 実施日 平成 29 年 4 月 18 日 (火)

(2) 対象

- ・小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒
- ・特別支援学校小学部第 6 学年及び中学部第 3 学年の該当児童生徒

(3) 調査の内容

- ・教科に関する調査 (国語、算数・数学)
- ・生活環境や学習環境等に関する質問紙調査 (児童生徒に対する調査 (以下、「児童生徒質問紙調査」という。)) 及び学校に対する調査 (以下、「学校質問紙調査」という。))

(4) 調査を実施した学校・児童生徒数

- ・小学校：356校 (99.4%)、児童数：約 15,500 人
- ・中学校：157校 (99.4%)、生徒数：約 16,300 人

※学校数には、義務教育学校 (前期/後期課程)、県立特別支援学校を含む。

※県立特別支援学校の小学部 2 校及び中学部 1 校については、対象児童生徒の体調不良等により未実施。

2 教科に関する調査の結果の概要

(1) 平均正答率

8 教科中 7 教科で全国の平均正答率を下回りました。中学校では数学 A で全国
の平均正答率を上回りました。

【小学校】 4 教科全てにおいて全国の平均正答率を下回りました。

※ [H28] 2 教科 (国語 B、算数 A) において全国の平均正答率を上回る。

国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	4 教科平均
73.6(-1.2)	57.0(-0.5)	77.4(-1.2)	44.6(-1.3)	63.2(-1.0)

【中学校】 1 教科 (数学 A) において全国の平均正答率を上回りました。

※ [H28] 1 教科 (数学 A) において全国の平均正答率と同水準。

国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	4 教科平均
76.9(-0.5)	70.7(-1.5)	65.3(+0.7)	47.3(-0.8)	65.1(-0.5)

※ () の数値は、全国の平均正答率との差を示す。

(2) 過去 4 年間の平均正答率等の推移 (全国の平均正答率との差)

中学校においては、平均正答率が昨年度と比べて全教科で全国との差が改善され
るとともに、小学校 6 年生時と比べても全教科で全国との差が大きく改善しま
した。

【小学校】 昨年度から 3 教科で全国との差が広がりました。(下降)

【中学校】 昨年度から全ての教科で差が改善しました。

【小学校】

	H26	H27	H28	H29	差
国語 A	-3.3	-2.0	-1.2	-1.2	±0
国語 B	-3.0	-0.1	0.3	-0.5	-0.8
算数 A	-1.9	-0.4	0.7	-1.2	-1.9
算数 B	-2.2	-0.9	-0.1	-1.3	-1.2

【中学校】

	H26	H27	H28	H29	差
国語 A	-1.4	-0.8	-1.2	-0.5	+0.7
国語 B	-2.0	-1.5	-2.2	-1.5	+0.7
数学 A	-0.3	-0.1	0.0	+0.7	+0.7
数学 B	-1.5	-1.0	-0.9	-0.8	+0.1

<参考>同一児童生徒 (小 6→中 3) の伸び

	H26	H29	差
国語 A	-3.3	-0.5	+2.8
国語 B	-3.0	-1.5	+1.5
算数 A	-1.9	+0.7	+2.6
算数 B	-2.2	-0.8	+1.4

※各数値は、全国の平均正答率との差を示す。なお、差の数値は、H29-H28 (H26) を示す。

(3) 平均無解答率

8教科中6教科(小学校国語A、算数A及び中学校全教科)で全国の平均無解答率を下回りました(全国よりも良好な水準)。

【小学校】2教科(国語A、算数A)において全国の平均無解答率を下回り、国語Aについては、これまでで一番改善が図られました。

国語A	国語B	算数A	算数B	4教科平均
2.26(-0.51)	4.32(+0.01)	1.44(-0.15)	6.64(+0.22)	3.35(-0.14)

【中学校】4教科全てにおいて全国の平均無解答率を下回るとともに、これまでで一番改善が図られました。

国語A	国語B	数学A	数学B	4教科平均
2.01(-0.42)	3.72(-0.08)	5.39(-0.86)	10.95(-0.76)	4.96(-0.61)

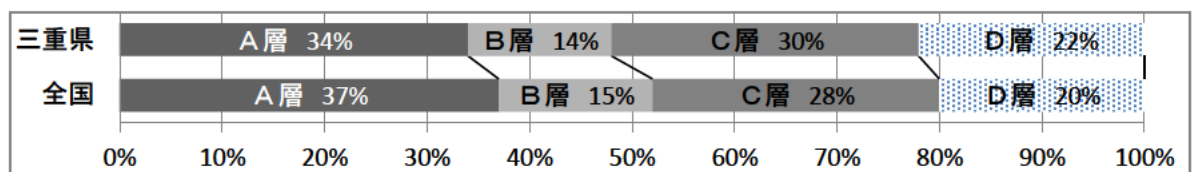
※ () の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。

(4) 平成28年度と平成29年度の学力層比較

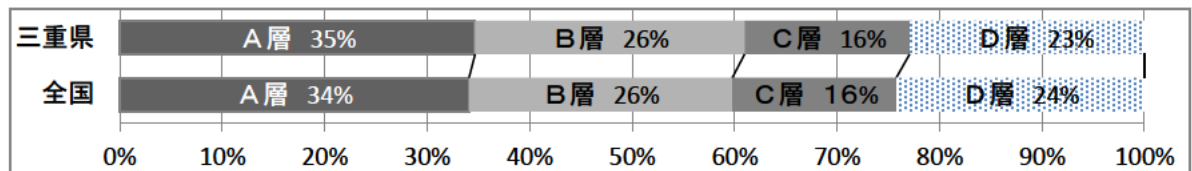
【小学校】算数Aで、昨年度A・B層の割合が6割を超えていましたが、本年度5割を下回りました。

(算数A)

平成29年度 A層(14~15問) B層(13問) C層(10~12問) D層(0~9問)

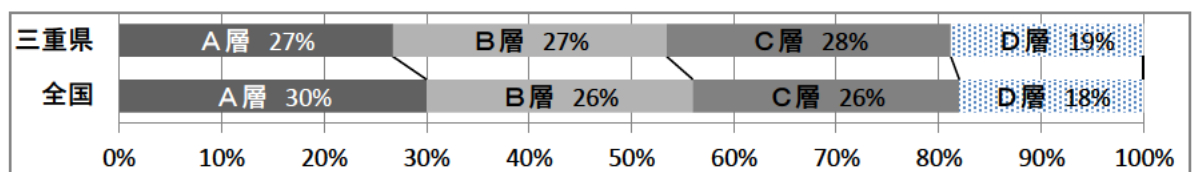


平成28年度 A層(15~16問) B層(13~14問) C層(11~12問) D層(0~10問)

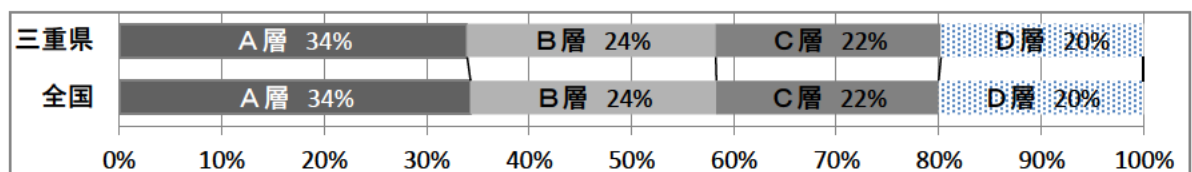


(算数B)

平成29年度 A層(7~11問) B層(5~6問) C層(3~4問) D層(0~2問)

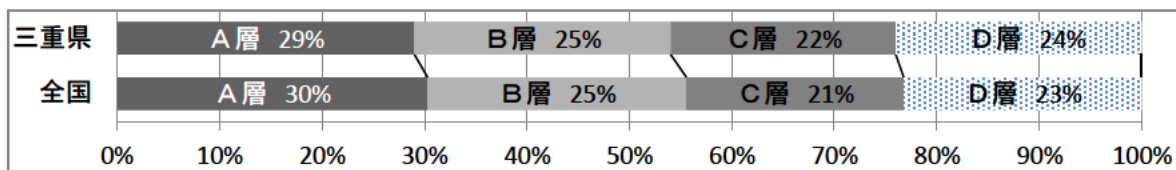


平成28年度 A層(8~13問) B層(6~7問) C層(4~5問) D層(0~3問)

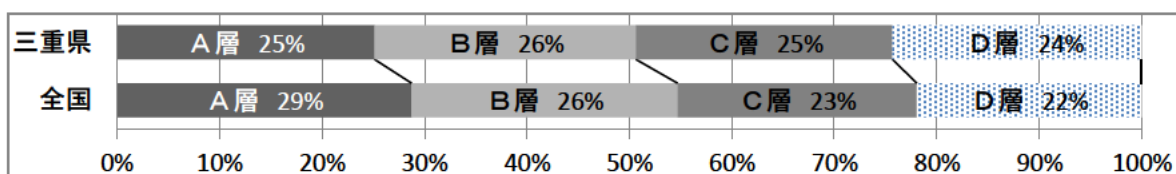


【中学校】国語A、数学Aで、A・B層の割合が全国との比較において改善しました。
(国語A)

平成29年度 A層(29～32問) B層(26～28問) C層(22～25問) D層(0～21問)

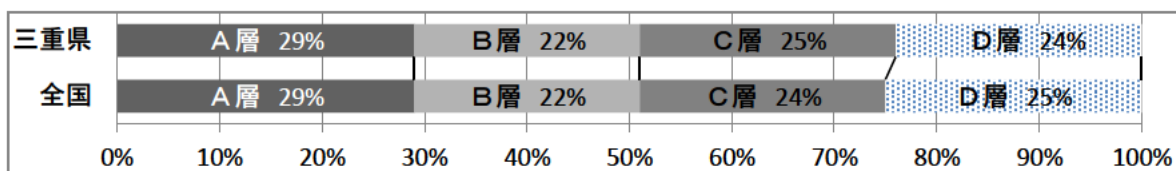


平成28年度 A層(29～33問) B層(26～28問) C層(22～25問) D層(0～21問)

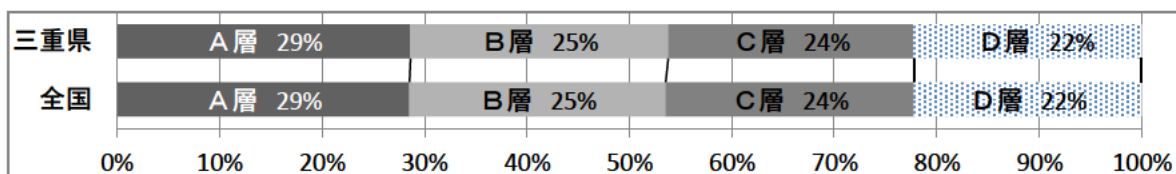


(数学A)

平成29年度 A層(30～36問) B層(25～29問) C層(18～24問) D層(0～17問)



平成28年度 A層(29～36問) B層(23～28問) C層(16～22問) D層(0～15問)



※A・B層とは、全国の児童生徒を正答数の多い順に、人数割合により25%刻みで4層分けを行ったときの上位2層をいう。

(5) 領域別経年比較

【小学校】ほぼ全ての領域で下降傾向にあり、特に、国語A「話すこと・聞くこと」、算数A「量と測定」「数量関係」、算数B「量と測定」「図形」は下降が顕著です。

【中学校】ほぼ全ての領域で改善傾向にあります。

(6) 課題の見られた設問(小学校)

- ・国語では文章を読み取る力や漢字を正しく書くことに課題があります。
- ・算数では割合等に関する知識の定着に課題があります。

【国語】・漢字を正しく書く(参加たいしょう): 37.0 (-5.0)

・文章の内容を読み取る(報告の説明として適切なものを選択): 66.0 (-3.2)

【算数】・商を分数で表す(5÷9の商): 64.3 (-4.9)

・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉える: 10.9 (-2.3)

※各数値は、設問別正答率を示す。()の数値は、全国の設定問別正答率との差を示す。

3 児童生徒・学校質問紙調査の結果の概要

(1) 学校の組織的な取組

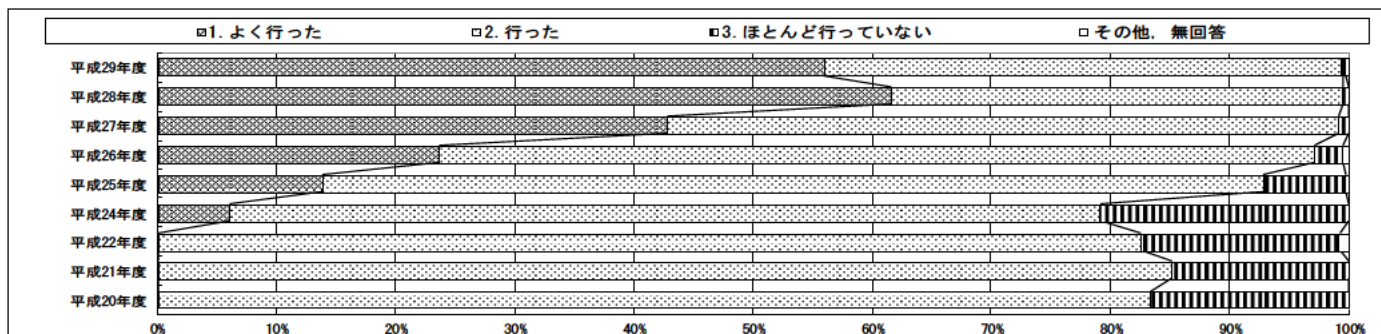
① 小学校において「よく行った」と回答した割合が減少した取組

小学校では、全国学調を活用して改善に結びつける取組、子どもの考えが深まるような授業展開、家庭学習の保護者への働きかけの取組等について、「よく行った」と回答している割合が減少しています。

質問番号 (55) 学調結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した

「よく行った」と回答した割合の昨年度との差/小：-5.7 中：-2.1

質問番号	質問事項									
(55)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか（具体的な教育指導の改善）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
平成29年度	55.9	43.5	0.3							0.3
平成28年度	61.6	37.9	0.5							0.0
平成27年度	42.8	56.4	0.8							0.0
平成26年度	23.6	73.5	2.4							0.5
平成25年度	13.8	79.0	6.9							0.3
平成24年度	6.1	73.0	20.9							0.0
平成22年度		82.5	16.7							0.8
平成21年度		85.1	14.9							0.0
平成20年度		83.4	16.6							0.0



選択肢1（「よく行った」）の割合に着目すると、これまで改善傾向にあったものが下降に転じました。

同様の状況が下記の学校質問紙調査の結果にも表れています。

番号 (小)	質問内容	昨年度との差	
		小学校	中学校
56	分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した	-5.4	-1.5
94	保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った	-4.4	+3.0
36	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	-3.3	+2.3
19	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発表や発言を行うことができています	-3.1	+1.3
42	本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した	-2.8	-0.4
15	話し合い活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています	-2.6	+4.6
17	話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています	-2.5	+1.4
41	自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	-0.5	-4.9

② 小学校における学校と児童との意識の差

これまで学校の組織的な取組の一つとして行ってきた「目標の提示」「振り返る活動の設定」については、一定の改善が見られますが、「振り返る活動の設定」については乖離が広がりました。

一方、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導については、これまで改善にあったものが下降に転じました。

ア 目標(めあて・ねらい)の提示

小学校	H26	H27	H28	H29
児童質問紙	75.7(-6.3)	83.0(-3.3)	88.8(1.2)	89.4(1.2)
学校質問紙	91.3(-5.6)	97.8(-0.3)	98.7(-0.1)	98.8(-0.2)
乖離	-15.6<-14.9>	-14.8<-11.8>	-9.9<-11.2>	-9.4<-10.8>

イ 振り返る活動の設定

小学校	H26	H27	H28	H29
児童質問紙	67.1(-4.8)	71.4(-3.9)	76.9(0.8)	78.8(2.6)
学校質問紙	76.3(-15.3)	89.9(-4.0)	93.0(-1.9)	95.3(-0.1)
乖離	-9.2<-19.7>	-18.5<-18.6>	-16.1<-18.8>	-16.5<-19.2>

ウ 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動 ※H27年度からの新規調査項目

小学校	H27	H28	H29
児童質問紙	71.0(-3.2)	75.0(-0.7)	72.8(-2.3)
学校質問紙	67.1(-5.9)	77.4(-2.7)	75.6(-6.7)
乖離	3.9<1.2>	-2.4<-4.4>	-2.8<-7.2>

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

※「乖離」の数値は、児童生徒質問紙-学校質問紙。なお、< >の数値は、全国の乖離の値を示す。

③校長の見回りの状況

週に2回以上、授業の見回りを行っている小学校の割合はこれまで改善傾向にありましたが、本年度は昨年度に比べると割合が減少しています。中学校の割合は継続的に改善が見られ、全国平均を上回っています。

校長の授業の見回り(週に2回以上)

	H26	H27	H28	H29
学校質問紙(小)	84.5(-7.1)	95.4(2.3)	98.2(4.0)	96.6(2.1)
学校質問紙(中)	69.2(-10.1)	81.4(0.0)	88.1(5.5)	88.5(5.0)

※各数値は、「週に2回以上見て回っている」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

④ 改善が見られた学校における主な取組

※ 平成26年度から平成29年度までの経年で、課題の改善が見られた学校と、課題の改善が見られなかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較

【小学校】

順	改善が見られた学校で、改善が見られなかった学校より取り組まれている活動（上位順）	
1	話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	+41.7
2	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	+36.1
3	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	+33.3
4	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています	+25.0
4	図書館資料を活用した授業を計画的に行った	+25.0
4	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	+25.0
7	児童は礼儀正しい	+22.2
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	+22.2

【中学校】

順	改善が見られた学校で、改善が見られなかった学校より取り組まれている活動（上位順）	
1	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています	+52.2
2	教科や朝の会などで、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った	+35.3
3	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	+34.6
4	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	+28.7
4	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	+28.7
6	長期休業日を利用した補足的な学習のサポートを実施した	+26.5
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	+23.5
7	指導計画の作成で、横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している	+23.5
7	授業や課外活動での地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した	+23.5
7	教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している	+23.5
11	話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	+22.8
11	指導計画の作成で、必要な人的・物的資源等を、外部の資源を含めて活用しながら組み合わせている	+22.8

(2) 子どもたちの家庭における生活習慣・学習習慣・読書習慣

① 基本的な生活習慣等

テレビ・テレビゲーム・スマホの通話やメール、インターネットの使用は、改善が見られません。

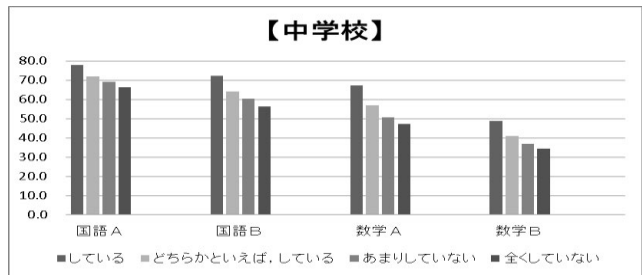
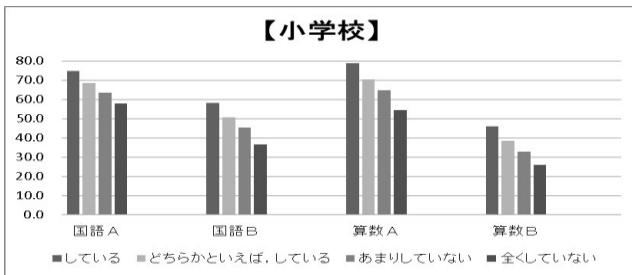
ア 朝食を毎日食べている、毎日同じぐらいの時刻に寝ている・起きている

平成29年度は小中学校ともに昨年度よりも肯定的な回答の割合が減り、小学校は、全国を下回っています。

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	88.3(-0.4)	88.3(-0.4)	89.1(0.3)	88.6(-0.2)
生徒質問紙(中)	86.9(0.3)	86.8(-0.1)	87.4(0.5)	87.1(0.0)

※各数値は、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」「毎日、同じぐらいの時刻に起きている」の肯定的回答割合の平均値を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【参考】「朝食を毎日食べている」と教科に関する調査の結果との関連



イ 平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用時間(「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲームの使用(3時間以上)」)

小中学校ともに平成28年度までは継続的に改善が見られましたが、平成29年度は小中学校ともに昨年度よりも3時間以上使用している割合が増え、全国との差も広がっています。

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	28.6(1.1)	27.0(0.4)	24.6(0.2)	26.6(1.4)
生徒質問紙(中)	29.6(3.7)	27.7(2.2)	23.4(1.9)	25.5(2.1)

※各数値は、「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲームの使用(3時間以上)」の回答割合の平均値を示す。()の数値は、全国の回答割合の平均値との差を示す。

ウ 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用時間(3時間以上)

中学校では、平成28年度までは継続的に改善が見られましたが、平成29年度は小中学校ともに昨年度よりも3時間以上使用している割合が増え、全国との差も広がっています。

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	5.6(0.6)	6.3(0.6)	5.9(0.1)	7.9(0.9)
生徒質問紙(中)	24.5(4.7)	21.5(3.3)	18.6(2.0)	20.6(2.5)

※各数値は、「3時間以上使用している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

② 家庭における学習習慣

- ・ 平日の学習時間は、小中学校ともに改善が見られません。
- ・ 休日の学習時間は、中学校において継続的に改善が見られます。なお、全国と比較すると、小中学校ともに依然として大きな差があります。

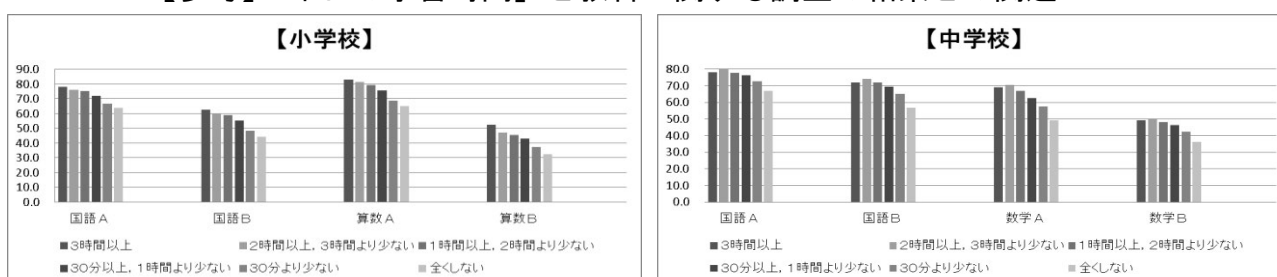
ア 平日の学習時間（1時間以上）

小中学校ともに全国との差が広がりました。（三重県の割合は改善。）

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	59.4(-2.6)	58.4(-4.3)	60.4(-2.1)	61.6(-2.8)
生徒質問紙(中)	64.4(-3.5)	66.5(-2.5)	65.2(-2.7)	66.5(-3.1)

※各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

【参考】「平日の学習時間」と教科に関する調査の結果との関連



イ 休日の学習時間（1時間以上）

小学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られません。中学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られました。（なお、全国との差は、小中学校ともに、継続的に-7~-10ポイント程度差があります。）

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	46.9(-9.0)	45.8(-10.9)	49.0(-8.0)	47.9(-9.4)
生徒質問紙(中)	57.4(-10.0)	59.9(-8.8)	59.8(-8.0)	62.0(-7.4)

※各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

③ 読書習慣（授業以外の読書時間（平日10分以上））

全国と比較すると、小中学校ともに差が広がりました。

小学校は全国との差、三重県の割合ともに改善が見られません。中学校は全国との差は広がっていますが、三重県の割合は改善が見られます。

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	62.5(-2.2)	61.1(-3.1)	62.4(-1.1)	61.8(-1.5)
生徒質問紙(中)	50.7(-2.3)	48.6(-3.6)	46.4(-3.3)	47.4(-3.7)

※各数値は、「10分以上読んでいる」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

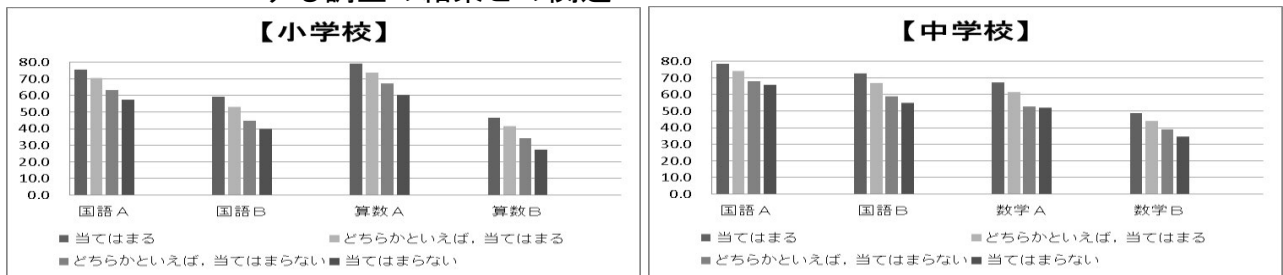
(3) 子どもたちの自尊感情・自己肯定感の状況

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している子どもたちの割合は増えており、子どもの自尊感情が継続的に高まっています。

① ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	94.6(0.2)	94.5(0.0)	94.9(0.5)	95.1(0.3)
生徒質問紙(中)	94.6(0.7)	95.1(0.9)	95.0(0.7)	95.5(0.8)

【参考】「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と教科に関する調査の結果との関連



② 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	75.4(0.3)	76.6(0.2)	77.6(1.5)	78.1(0.7)
生徒質問紙(中)	69.5(1.5)	69.7(0.9)	70.8(1.2)	73.2(2.2)

③ 自分には、よいところがある

	H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)	75.7(-0.4)	75.1(-1.3)	75.5(-0.8)	77.4(-0.5)
生徒質問紙(中)	69.1(2.0)	69.4(1.3)	71.3(2.0)	73.2(2.5)

④ 先生はよいところを認めてくれる

小学校	H26	H27	H28	H29
児童質問紙	80.1(0.4)	—	83.8(1.2)	87.2(1.2)
学校質問紙	97.1(0.2)	97.6(0.9)	99.4(1.0)	98.1(0.7)
乖離	-17.0<-17.2>	—	-15.6<-15.8>	-10.9<-11.4>

中学校	H26	H27	H28	H29
生徒質問紙	74.0(-0.1)	—	79.6(1.6)	82.2(1.8)
学校質問紙	96.9(0.4)	99.4(3.6)	98.8(1.6)	96.8(1.3)
乖離	-22.9<-22.4>	—	-19.2<-19.2>	-14.6<-15.1>

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

※「乖離」の数値は、児童生徒質問紙－学校質問紙。なお、< >の数値は、全国の乖離の値を示す。

4 今後の対応方針

(1) 危機感・課題の共有と学校における重点化した取組の推進

① 市町等教育委員会と危機感を共有し、学校への指導・支援を実施

- ・市町ごとの取組状況を把握し、その状況に応じた指導・支援を行います。また、各市町等教育委員会で開催される学力向上推進会議に参加し、各市町における具体策に対する指導・支援を行います。

② 小学校における学力向上に向けた取組に対する支援

- ・児童生徒・学校質問紙調査結果等から、小学校ごとの課題を具体的に把握し、早急に学校訪問を行い校長との面談により改善方を提示し、できていないことが実行されるよう（学校全体での課題の共有、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導、家庭学習の習慣 等）きめ細かな指導・支援を行います。

③ 校長のリーダーシップによる教育活動の質的向上

- ・小中学校長会（代表者会・役員会）及び地域別校長会において、特に小学校の組織的取組、児童生徒の生活習慣・学習習慣・読書習慣に係る課題を共有します。
- ・「校長による授業の見回り」が効果的に行われるよう支援します。
※視点を持って見回る、授業者にフォローアップする 等
- ・全国学調、みえスタディ・チェックの課題に対応した学—viva（まなびば）セットの、各学校における計画的な活用を促進します。（問題の再活用）
- ・課題を学校全体で共有し、学年の系統性を重視した学習の積み上げを行います。

④ 教員の指導力向上

- ・指導主事による学校訪問の中で授業を参観し、授業者への個別指導を行います。
- ・教科に関する調査の設問分析を詳細に行い、教員への指導・助言につなげます。
- ・国の調査官を講師として招聘し、県内7会場で授業改善研修会を実施します。
- ・若手教員の悉皆研修において、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに係る指導を行います。

(2) 子どもたちの持てる力を引き出すために

- ・課題に応じた小学生向けワークシートを増量します。
- ・宿題用「学—viva（まなびば）セット」（子どもが自分の力で解けるヒントも含めたワークシート集）を作成・配付（10月末）し、全ての小学校において計画的な活用を促進します。

(3) 家庭・地域と一体となって子どもたちの学力を育むために

- ・みえの学力向上県民運動に係るチラシを作成し、その中で、学習習慣、基本的な生活習慣の確立や、家庭におけるスマホのルールづくり等の重要性について周知啓発します。
- ・家庭の状況により、家庭学習ができない子どもたちに対して、地域未来塾等の取組をさらに促進します。